

参考資料 1：アンケート調査票

**遅れのある子どもの早期発見・対応に関する調査票(施設票)**

1. 貴保育所の施設の状況についてお伺いします。

Q1. 貴保育所名称			
Q2. 所在地	1. 都道府県・指定都市名 ( )	2. 市区名 ( )	3. 町村名 ( )
Q3. 経営主体	1. 市町村などの公営		2. 社会福祉法人などの民営
Q4. 児童定員数	( )人		
Q5. 入所児童数	( )人		

Q6. 貴保育所には身体障害(肢体不自由・視覚・言語聴覚障害など)、知的障害児、自閉症児がいますか。

1. 現在いる	2. 過去3年間にいたことがある	3. いない
---------	------------------	--------

Q7. 貴保育所には遅れのある子ども(言葉・知能・行動・運動などに遅れが見られ通常より手がかかる子ども等)がいますか。

1. 現在いる	2. 過去3年間にいたことがある	3. いない
---------	------------------	--------

2. 遅れのある子どもの早期発見・支援のための地域ネットワークについてお伺いします。

Q8. 貴保育所の地域には、遅れのある子どもの早期発見・支援を目的とした地域のネットワークがありますか。

1. ある →Q9へ	2. ない →Q14へ
------------	-------------

Q9. Q8で「ある」と答えられた保育所の方のみお尋ねします。

そのネットワークはどの程度の範囲をカバーするものですか、最も近いものにひとつだけ○をつけてください。

※ 遅れのある子ども支援のネットワークが複数ある場合は、最も活動的・効果的なものについてお答えください(以下同)。

1. 小学校区 程度	2. 中学校区 程度	3. 市区町村 程度	4. 複数市町村 (例:「〇〇県東部地域」など)	5. 都道府県 程度	6. 広域
---------------	---------------	---------------	-----------------------------	---------------	-------

Q10. 遅れのある子どもの早期発見・支援を目的とした地域ネットワークには、どのような団体・個人が所属していますか。

あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 他の保育所	10. 障害児通所施設(障害児通園施設、児童デイサービス等)
2. 幼稚園	11. 発達支援センター
3. 小学校	12. 児童相談所・児童相談センター
4. 中学校	13. 一般医
5. 高校	14. 「遅れ」の専門医
6. 大学・研究機関	15. 保健所・保健センター
7. 特別支援学校	16. 市区町村
8. 自治会・町内会	17. 特定非営利活動法人(NPO)、子育てサークル等の任意団体
9. 障害児入所施設(各種障害児施設・療育センター)	18. その他(具体的に: )

Q11. 上記の団体のうち、遅れのある子どもの早期発見・支援を目的とした地域ネットワークを中心となって立ち上げた団体・個人はどこですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 自分の保育所	11. 障害児通所施設(障害児通園施設、児童デイサービス等)
2. 他の保育所	12. 発達支援センター
3. 幼稚園	13. 児童相談所・児童相談センター
4. 小学校	14. 一般医
5. 中学校	15. 「遅れ」の専門医
6. 高校	16. 保健所・保健センター
7. 大学・研究機関	17. 市区町村
8. 特別支援学校	18. 特定非営利活動法人(NPO)、子育てサークル等の任意団体
9. 自治会・町内会	19. その他
10. 障害児入所施設(各種障害児施設・療育センター)	(具体的に: )

Q12. 貴保育所は遅れのある子どもの早期発見・支援を目的とした上記の地域のネットワークに参加されていますか。

当てはまるものに○をつけてください。

**また、貴保育所が属しているネットワークを示した図等があれば、写しをこのアンケート票と一緒にご返送ください。**

1. 園として地域ネットワークに参加している →Q13 へ
2. 園として直接ネットワークに参加しているわけではないが、保育所の代表が参加しており、所長会議などで情報を共有している →Q13 へ
3. 地域ネットワークにまったく参加していない →Q15 へ

Q13. Q12 で地域ネットワークに何らかの形で参加していると答えられた保育所の方のみお尋ねします。

地域ネットワークに参加することによって、どのようなメリットがありましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 保育所管理職職員の負担が低減した	5. 保育士の心理的不安が低減した
2. 保育士の負担が低減した	6. 保護者の心理的不安が低減した
3. 保護者に対する積極的な支援が得られた	7. 子どもの遅れの状況が改善した
4. 保育所管理職職員の心理的不安が低減した	8. その他(具体的に: )

Q14. 地域ネットワークに参加することによって、どのようなデメリットがありましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 保育所管理職職員の負担が増加した	5. 保護者の心理的不安が増加した
2. 保育士の負担が増加した	6. 子どもの遅れの状況が重度化した
3. 保育所管理職職員の心理的不安が増加した	7. その他
4. 保育士の心理的不安が増加した	(具体的に: )

### 3. 小学校との連携・交流状況についてお伺いします。

Q15. 貴保育所では、小学校とどのような連携・交流を行っていますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

1. 園児による学校訪問、授業・行事や給食体験等	5. 保育士と小学校教職員の交流(勉強会や相互訪問等)
2. 小学生による保育所訪問、保育体験等	6. 保護者を対象にした就学に向けた心構えの説明等
3. 小学校教職員による保育所訪問、出前授業等	7. その他(具体的に: )
4. 保育士が卒園後の様子を見届ける交流の機会	8. 連携・交流はほとんどない →Q16へ

「8. 交流がほとんどない」と答えられた保育所の方以外は →Q17へ

Q16. Q15で「小学校との連携・交流はほとんどない」と答えられた保育所の方にのみお尋ねします。

小学校との連携をしていない理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

1. 連携・交流するための時間的余裕がない	5. 連携・交流について保護者の理解が得られない
2. 連携・交流するための人的余裕がない	6. 連携・交流について学校側の理解が得られない
3. どの小学校と連携すればよいかわからない	7. 連携・交流の必要性やメリットを感じない
4. 連携・交流をコーディネートしてくれる人がいない	8. 特に理由はない

### 4. 遅れの早期発見・支援を目的としたマニュアルについてお伺いします。

Q17. 貴保育所には、遅れのある子どもの早期発見・支援を目的としたマニュアルが整備・活用されていますか。

また、貴保育所でマニュアルが使われている場合、当該マニュアルの写し(ページが多い場合は目次のみ)をこのアンケート票と一緒にご返送ください。

1. マニュアルが整備され活用されている →Q18へ
2. マニュアルは整備されているが活用されていない →Q18へ
3. マニュアルは整備されていない →Q22へ

Q18～Q21は、Q17で「マニュアルが整備されている」と答えられた保育所の方にのみお尋ねします。

Q18. そのマニュアルの作成主体は誰ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

1. 自治体	4. 市販のもの、その他 (市販・配布元団体名をご記入ください: )
2. 学校	
3. 保育所(自分たちのオリジナル)	

Q19. マニュアルを作ることを最初に発案・指示した主体は誰あるいはどの団体でしたか。

最も近いものの一つだけ○をつけてください。

1. 保育士	4. 市町村
2. 保育所内の管理職	5. 都道府県
3. 保育所内のその他の職種	6. その他(具体的に: )

Q20. マニュアルの最新版を作成した時期をお答えください。

1. 今年	2. 昨年	3. 3年前	4. 4～5年前	5. 6～9年前	6. 10年以上前	7. 把握していない
-------	-------	--------	----------	----------	-----------	------------

Q21. マニュアルは、どのくらいの頻度で更新されていますか。最も近いもの一つだけ○をつけてください。

1. 毎年	2. 2年に1度	3. 3～5年に1度	4. 6年以上に1度	5. 更新に関するルールはない	6. 把握していない
-------	----------	------------	------------	-----------------	------------

以下の設問では、マニュアルが整備されている保育所の方はそのマニュアルの現在の姿を、マニュアルが整備されていない保育所の方はこうあるべきだと思う姿を、それぞれお答えください。

Q22. 遅れのある子どもの早期発見・支援のためのマニュアルの内容には、どのような内容が盛り込まれていますか(盛り込まれているべきだと思いますか)。当てはまるものすべてに○をつけてください。

〈所内ルール面〉	〈知識面〉
1. 遅れを発見したときの園内の意思決定のルール	7. 遅れの種類やその特徴に関する情報
2. 保護者への説明手順	8. 遅れや障害のある幼児の保育に関する法令・規則についての情報
3. 保育所管理職と保育士との情報共有のルール	9. 他の保育所の取り組みについての情報
4. 保育士同士の情報共有のルール	
5. 幼児に関する記録のつけ方	
6. 連携している機関のリストと連携の種類	10. その他(具体的に: )

Q23. マニュアルの活用方法についてお尋ねします。

マニュアルは、誰、あるいはどの団体に配布されていますか(配布されるべきだと思いますか)。

当てはまるものすべてに○をつけてください。

1. 保育士	6. 児童相談所
2. 保育所内の管理職	7. 保健所・保健センター
3. 保育所内のその他の職種	8. 学校
4. 関連する法人内の児童福祉施設等の職員	9. その他の行政機関
5. 保護者	10. その他(具体的に: )

Q24. マニュアルは、どんなとき、どのように活用されていますか(活用されるべきだと思いますか)。

当てはまるものすべてに○をつけてください。

1. 定期的に確認する	5. 研修のテキストとして使用する
2. 定期的に書き込む	6. 対外的な説明に使用する
3. 必要に応じて各自で参照する	7. その他
4. 必要に応じて各自で書き込む	(具体的に: )

「施設票」へのご協力有難うございました。ご返送にあたっては、「個票」の同封をお願いいたします。  
該当する子どもがないなど、個票を同封されない場合は、下の欄に印をつけてご返送ください。

利用者個票を同封いたしません。

また、地域ネットワーク図、マニュアルの写しを同封してお送りいただける場合は、  
下の欄に下の欄に印をつけてご返送ください。

ネットワーク図の写しを同封します。

マニュアルの写しを同封します

## 平成20年4月に就学した遅れのある子どもへの対応に関する調査票(個票)

※以下の質問は、平成20年4月に貴保育所から小学校に就学した、遅れのある子ども一人ひとりについてお答えください。貴保育所において、その子どもの入所前や就学後の生育歴を把握できていない場合には、現在把握している範囲でお答えください。特におことわりのない場合は、卒園の時点の状況をお答えください。

### 1. その子ども本人についてお伺いします。

Q1. 生年月日	西暦	年	月	日生
Q2. 性別(当てはまるものに○をつけてください)	1. 男	2. 女		
Q3. 貴保育所への入所年月日	西暦	年	月	日入所

Q4. その子どもについて、現在診断されている障害はありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 知的障害	5. 学習障害(LD)
2. 自閉症・自閉的傾向	6. 軽度精神遅滞
3. アスペルガー症候群など高機能広汎性発達障害(HFPPD)	7. その他(具体的に: )
4. 注意欠陥多動性障害(ADHD)	8. 診断されていない

Q5. その子どもについて、現在「遅れ」があるのはどの分野ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 言葉の遅れ	2. 知能の遅れ	3. 行動の遅れ	4. 運動の遅れ
----------	----------	----------	----------

Q6. その子どもは、遅れについての相談や生活指導などの療育を普段どこで受けていますか(受けていましたか)。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 障害児入所施設(各種障害児施設・療育センター)	6. 保健所・保健センター
2. 障害児通所施設 (障害児通園施設、児童デイサービス等)	7. 特定非営利活動法人(NPO)、 子育てサークル等任意団体
3. 発達支援センター	8. その他(具体的に: )
4. 児童相談センター	9. 受けていない
5. 医療機関	10. 把握していない

### 2. その子どもの家族の状況についてお伺いします。

Q7. その子どもの「両親」の状況についてお答えください。

1. 両親が同居(養父母の場合も含む)	4. 同居している両親はいない(養父母の場合も含む)
2. 母親のみ同居(父親なし)	5. その他(具体的に: )
3. 父親のみ同居(母親なし)	

Q8. その子どもの「きょうだい」の状況についてお答えください。

1. 年上のきょうだいあり →Q9へ	2. 年下のきょうだいあり →Q9へ	3. 年上・年下のきょうだいあり →Q9へ	4. きょうだいはいない →Q10へ
-----------------------	-----------------------	--------------------------	-----------------------

Q9. Q8で「きょうだいあり」と答えられた場合についてのみお尋ねします。

その子どもの「きょうだい」の障害や遅れの状況について最も近いものの一つだけ○をつけてください。

1. 障害や遅れのあるきょうだいがいる	2. 障害や遅れのあるきょうだいはいない	3. 把握していない
---------------------	----------------------	------------

### 3. その子どもの就学状況についてお伺いします。

Q10. その子どもの平成20年4月1日時点での小学校就学状況についてお答えください。

1. 普通学級 (通級による指導なし)	2. 普通学級に在籍し、 通級による指導あり	3. 特別支援学級	4. 特別支援学校	5. 把握していない
------------------------	---------------------------	-----------	-----------	------------

Q11. その子どもの平成20年10月1日時点での小学校在籍状況についてお答えください。

1. 普通学級 (通級による指導なし)	2. 普通学級に在籍し、 通級による指導あり	3. 特別支援学級	4. 特別支援学校	5. 把握していない
------------------------	---------------------------	-----------	-----------	------------

Q12. その子どもは、平成20年10月1日時点で小学校に馴染んでいる様子ですか。

お分かりになる範囲で最も近いもの一つだけ○をつけてください。

1. 遅れない子どもと同様に馴染んでいる様子	3. あまり馴染んでいない様子
2. 遅れがあることを認められながらも馴染んでいる様子	4. 把握していない

Q13. 就学後、貴保育所とどのような接点がありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 法人内のサービスを定期的にご利用している(学童保育など)	4. 時折学級担任が来訪する
2. 法人の地域交流事業などで不定期に子どもが来訪する	5. 保育所関係者が就学先を訪問する
3. 時折親が来訪する	6. その他(具体的に: )

### 4. 遅れの気づきと遅れの改善状況についてお伺いします。

Q14. その子どもの「遅れ」の可能性に気づいた「時期」は次のどれにあたりますか。最も近いものにひとつだけ○をつけてください。

1. 入所前 →Q16へ	2. 入所後 1ヶ月未満	3. 入所後1ヶ月 以上3ヶ月未満	4. 入所後3ヶ月 以上6ヶ月未満	5. 入所後6ヶ月 以上12ヶ月未満	6. 入所後 12ヶ月以上
-----------------	-----------------	----------------------	----------------------	-----------------------	------------------

「1. 入所前」と答えられた方以外は →Q16へ

Q15. Q14で「入所前」と答えられた保育所の方のみお尋ねします。子どもの遅れに関する情報は、誰から提供がありましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 自治体	2. 保護者	3. 医療機関	4. 障害児専門機関 (障害児通所施設、発達支援センター等)	5. その他 (具体的に )
--------	--------	---------	-----------------------------------	-------------------

Q16. 遅れを発見したとき、その子どもは何歳でしたか。

1. 0歳	2. 1歳	3. 2歳	4. 3歳	5. 4歳	6. 5歳以上
-------	-------	-------	-------	-------	---------

Q17. 遅れを発見した時点で、その子どもはどの程度の遅れを抱えていましたか。保育士の介助があった場合の日常生活について、最も近いもの一つだけ○をつけてください。

1. 保育士の介助により、健常児と同様に日常生活を送ることができた	2. 保育士が介助しても、健常児と同様の日常生活にはやや困難があった	3. 保育士が介助しても、健常児と同様の日常生活には非常に困難があった
-----------------------------------	------------------------------------	-------------------------------------

Q18. 担当保育士から見て、遅れを発見した時点で生活において気になる点はどのようなものでしたか。

担当保育士が見守り、援助していても発生する気になる点について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 表情が乏しい(泣いたり笑ったりしない)	7. 集団行動が取れない・集団で遊べない
2. ほとんど体を動かさない	8. 一人遊びが多い
3. ほとんどしゃべらない	9. 話し言葉の理解が悪い
4. 集中力がない	10. 特定のものにこだわる
5. 落ち着いて座ってられない	11. その他(具体的に: )
6. 自分勝手に見えるような行動が多い	

Q19. 貴保育所を卒園する時点で、その子どもはどの程度の遅れを抱えていましたか。最も近いものの一つだけ○をつけてください。

1. 保育士の介助により、健常児と同様に日常生活を送ることができた	2. 保育士が介助しても、健常児と同様の日常生活にはやや困難があった	3. 保育士が介助しても、健常児と同様の日常生活には非常に困難があった
-----------------------------------	------------------------------------	-------------------------------------

Q20. 担当保育士から見て、貴保育所を卒園する時点で生活において気になる点はどのようなものでしたか。

担当保育士が見守り、援助していても発生する気になる点について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 表情が乏しい(泣いたり笑ったりしない)	8. 一人遊びが多い
2. ほとんど体を動かさない	9. 話し言葉の理解が悪い
3. ほとんどしゃべらない	10. 特定のものにこだわる
4. 集中力がない	11. スキップができない
5. 落ち着いて座ってられない	12. じゃんけんの勝敗がわからない
6. 自分勝手に見えるような行動が多い	13. その他(具体的に: )
7. 集団行動が取れない・集団で遊べない	

Q21. 保育所での気づきから卒園までに、遅れの状況はどのように変化しましたか。最も近いもの一つだけ○をつけてください。

1. 軽減した	2. 変わらなかった	3. 重度化した
---------	------------	----------

Q22. 卒園から現在(就学約半年後)までに、遅れの状況はどのように変化しましたか。最も近いもの一つだけ○をつけてください。

1. 軽減した	2. 変わらない	3. 重度化した	4. 把握していない
---------	----------	----------	------------

## 5. その子どもの就学における学校への引継ぎについてお伺いします。

Q23. その子どもの卒園・就学時、貴保育所からの学校に対して、対象児の「遅れ」についての引継ぎや申し送りがありましたか。

1. 「遅れ」についての引継ぎ・申し送りがあった →Q24へ	2. 「遅れ」についての引継ぎ・申し送りはなかった →Q26へ
-----------------------------------	------------------------------------

Q24. Q23で「遅れについての引継ぎ・申し送りがあった」と答えられた保育所の方にお尋ねします。

貴保育所からの学校への対象児の「遅れ」について引継ぎや申し送りの方法について、最も近いもの一つだけ○をつけてください。

1. 書面・メール等で連絡(一方的) →Q26へ	3. 電話などによる口頭でのやりとり(双方向) →Q26へ
2. 書面・メール等でのやりとり(双方向) →Q26へ	4. 対面でのやり取り →Q25へ

Q25. Q24 で「対面での引継ぎがあった」と答えられた保育所の方のみお尋ねします。

その引継ぎの場には、誰が同席していましたか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

1. 本人(子ども)	8. 教育委員会
2. 保護者	9. 児童相談所
3. 保育士	10. 保健師
4. 園長や保育所の管理職	11. 医師
5. 小学校の教職員	12. 障害児関連施設職員
6. 特別支援教育の担当教員	13. 特別支援教育コーディネーター
7. 小学校の管理職	14. その他(具体的に: )

Q26. 貴保育所以外の関係機関等から、対象児の「遅れ」について、学校への引継ぎや申し送りはありましたか。

a～fのそれぞれの機関から学校への引継ぎ・申し送りの方法について、最も近いもの一つずつ○をつけてください。

a. 保健師から	1. 書面で あった	2. 口頭で あった	3. その他の手段で あった	4. なかった	5. 把握して いない
b. 医師から	1. 書面で あった	2. 口頭で あった	3. その他の手段で あった	4. なかった	5. 把握して いない
c. 児童相談所から	1. 書面で あった	2. 口頭で あった	3. その他の手段で あった	4. なかった	5. 把握して いない
d. 教育委員会から	1. 書面で あった	2. 口頭で あった	3. その他の手段で あった	4. なかった	5. 把握して いない
e. 障害児通園施設から	1. 書面で あった	2. 口頭で あった	3. その他の手段で あった	4. なかった	5. 把握して いない
f. その他 (具体的に: )	1. 書面で あった	2. 口頭で あった	3. その他の手段で あった	4. なかった	5. 把握して いない

Q27. Q24 の引継ぎ・申し送り以外に、保育現場から教育現場へのスムーズな移行にむけた取り組みとして実施されたことはありますか。あてはまるものすべてに○を付けてください。

1. 就学前に保育現場に教育関係者が来訪して、保育観察や留意点の引継ぎ等を行った
2. 就学後に保育士が学校に付き添って、留意点を引き継いだ
3. 就学後に保護者が学校に付き添って、留意点を引き継いだ
4. その他(具体的に: )

質問は以上です。ご協力いただき誠にありがとうございました。施設票とともにご返送ください。